

リーディングDXスクール事業【実践事例】

松江市立義務教育学校玉湯学園

【取組内容①】Google Workspaceの授業活用に向けた実践的職員研修の実施

本校では、Windows端末でのGoogle Workspaceの活用を進めている。授業での活用を進めるためには、一部のICTに卓越した教職員の取組ではなく、全教職員の取組となるような手立てが必要と考え、教職員の目線あわせとスキルアップに重点を置いた。

①「ICT活用能力体系表」の活用

各学年部から担当者を選びプロジェクトチームとし、目標と事業計画を設定し共有した。

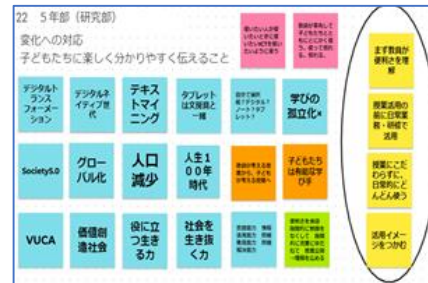
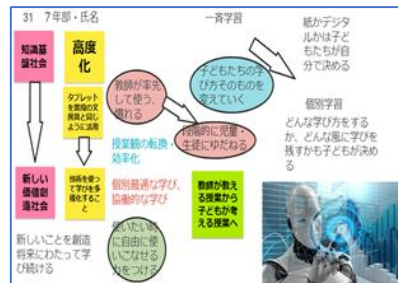
1～9年生が在籍する義務教育学校であり、発達段階も幅広いことから、各学年でどのような力をつけていくのかを示した系統表を作成し、それを意識して取り組んだ。実践しながら加筆・修正し、各学年の取組を可視化することで活用の見通しを持つことができた。

	前期ブロック①		前期ブロック②		中期ブロック			後期ブロック	
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生
調べる	「調べる・知る・話す」 目的をもって情報を集めたり、整理して情報の中から必要な情報を抽出したり、プロセスを整理して共有できるようにする。	「調べる・知る・話す」 目的をもって情報を集めたり、整理して情報の中から必要な情報を抽出したり、プロセスを整理して共有できるようにする。	「調べる・知る・話す」 目的をもって情報を集めたり、整理して情報の中から必要な情報を抽出したり、プロセスを整理して共有できるようにする。	「調べる・知る・話す」 目的をもって情報を集めたり、整理して情報の中から必要な情報を抽出したり、プロセスを整理して共有できるようにする。	「調べる・知る・話す」 目的をもって情報を集めたり、整理して情報の中から必要な情報を抽出したり、プロセスを整理して共有できるようにする。	「調べる・知る・話す」 目的をもって情報を集めたり、整理して情報の中から必要な情報を抽出したり、プロセスを整理して共有できるようにする。	「調べる・知る・話す」 目的をもって情報を集めたり、整理して情報の中から必要な情報を抽出したり、プロセスを整理して共有できるようにする。	「調べる・知る・話す」 目的をもって情報を集めたり、整理して情報の中から必要な情報を抽出したり、プロセスを整理して共有できるようにする。	「調べる・知る・話す」 目的をもって情報を集めたり、整理して情報の中から必要な情報を抽出したり、プロセスを整理して共有できるようにする。
考える まとめる	「考える・まとめる」 目的をもって情報を集めたり、整理して情報の中から必要な情報を抽出したり、プロセスを整理して共有できるようにする。	「考える・まとめる」 目的をもって情報を集めたり、整理して情報の中から必要な情報を抽出したり、プロセスを整理して共有できるようにする。	「考える・まとめる」 目的をもって情報を集めたり、整理して情報の中から必要な情報を抽出したり、プロセスを整理して共有できるようにする。	「考える・まとめる」 目的をもって情報を集めたり、整理して情報の中から必要な情報を抽出したり、プロセスを整理して共有できるようにする。	「考える・まとめる」 目的をもって情報を集めたり、整理して情報の中から必要な情報を抽出したり、プロセスを整理して共有できるようにする。	「考える・まとめる」 目的をもって情報を集めたり、整理して情報の中から必要な情報を抽出したり、プロセスを整理して共有できるようにする。	「考える・まとめる」 目的をもって情報を集めたり、整理して情報の中から必要な情報を抽出したり、プロセスを整理して共有できるようにする。	「考える・まとめる」 目的をもって情報を集めたり、整理して情報の中から必要な情報を抽出したり、プロセスを整理して共有できるようにする。	「考える・まとめる」 目的をもって情報を集めたり、整理して情報の中から必要な情報を抽出したり、プロセスを整理して共有できるようにする。
伝える 深める	「伝える・まとめる」 目的をもって情報を集めたり、整理して情報の中から必要な情報を抽出したり、プロセスを整理して共有できるようにする。	「伝える・まとめる」 目的をもって情報を集めたり、整理して情報の中から必要な情報を抽出したり、プロセスを整理して共有できるようにする。	「伝える・まとめる」 目的をもって情報を集めたり、整理して情報の中から必要な情報を抽出したり、プロセスを整理して共有できるようにする。	「伝える・まとめる」 目的をもって情報を集めたり、整理して情報の中から必要な情報を抽出したり、プロセスを整理して共有できるようにする。	「伝える・まとめる」 目的をもって情報を集めたり、整理して情報の中から必要な情報を抽出したり、プロセスを整理して共有できるようにする。	「伝える・まとめる」 目的をもって情報を集めたり、整理して情報の中から必要な情報を抽出したり、プロセスを整理して共有できるようにする。	「伝える・まとめる」 目的をもって情報を集めたり、整理して情報の中から必要な情報を抽出したり、プロセスを整理して共有できるようにする。	「伝える・まとめる」 目的をもって情報を集めたり、整理して情報の中から必要な情報を抽出したり、プロセスを整理して共有できるようにする。	「伝える・まとめる」 目的をもって情報を集めたり、整理して情報の中から必要な情報を抽出したり、プロセスを整理して共有できるようにする。

「ICT活用能力体系表」

②実践的な教職員研修の実施

Googleクラスルームやジャムボード、スプレッドシート等を活用した授業を教員相互で見学したり、演習を中心とした教職員研修を実施した。研修に際してはICT活用に向けた自身の課題を最初に設定し、講義を聞きながら、解決策のヒントをジャムボードに書き出していきなど、授業での活用シーンを意識した実践的な研修を実施し、結果的に授業観の変革にも繋がった。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

松江市立義務教育学校玉湯学園

【取組内容①】 生活科や総合的な学習の時間を中心とした、ICT活用プロジェクトの全学年(1～9年生)での実施

「ICT活用プロジェクト」と題し、生活科や総合的な学習の時間を中心に、「気づく」「調べる」「考える」「まとめる」「伝える」といった探究的な学習の中で、ICT活用を進めていった。

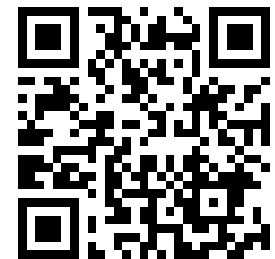
ICT活用の推進には、「教える」から「自ら学ぶ」といった授業観・学習観の変革を伴っていく必要がある。その中核となる生活科や総合的な学習の時間の充実がICT活用の推進にも寄与すると考えた。

総合的な学習の時間におけるICT活用を計画するとともに、それに向けて他教科でもどのような活用ができるのかを教科横断的に計画し、「ICT活用プロジェクト」として全学年で実施した。

生活科や総合的な学習の時間は、学年部の教員で相談・連携して取り組むことが多いため、教員間のICT活用に係る知識・ノウハウ格差解消の一助にも寄与した。

ICT活用プロジェクト企画書 3年部		
1.重点教科：総合的な学習の時間		
(1)単元名 再発見！玉湯のじまんを見つけよう！調べよう！伝えよう！		
(2)ねらい ○地域で身近な人が活動する姿に関心をもち、やってみたいことを見つけることができる。友達と協力して活動し、学んだことをつなげて考え、表現することができる。 ○ICTの活用について 自分が深く調べたいテーマについて、タブレットのSKY MENUを使ってまとめて発表する。		
(3)単元計画		
時期	学習の流れ	
4月 5月 6月 7月 5～7月	・オリエンテーション ・町探検南コース ・町探検北コース ・観光協会・まちデコ代表の角さんの講話 ・町探検や角さんのお話から発見した玉湯のじまん(すごいところ・すてきなところ)をカードや新聞にまとめ、互いに交流する。	
9月	・報恩寺、玉作資料館への見学や、まが玉づくりの体験などをしつつ、自分の課題を見つけ、調べ学習を始める。 ①思考ツールを使って課題を決める。	
11月～1月	②情報を集める(これまでの資料・インターネット・インタビュー) 選んだ課題別にグループを作り、情報交換・相談をしながら進める ③情報を取捨選択しながら、プレゼンの計画を立てる ④まとめたことをシンプルプレゼンでまとめる。 ⑤学級・学年の中でプレ発表をして改善する。 見る側の視点(魅力をどう伝えるか・相手に分かりやすいか)	
2月	・シンプルプレゼンを使って、発表する。	
2. ICTの活用計画 (各教科でこんなことをやってみようかな・・・)		
教科	活用場面	(実施できたら)実施した月
国語	ローマ字入力・タイピング	7月～
算数	教員用タブレットで児童の考え(ノート等)を撮影して電子黒板で大きく映し出しながら説明する。	通年
社会	松江市の資料をみて気づいたことを発表ノートに書き込み、みんなで見合う。	7月
英語	デジタル教科書を使って学習を進める。	
理科	ホウセンカの写真をとり、写真を入れて簡単な生長記録を作る。	
体育	表現・とびばこ・鉄棒の学習で自分の姿を動画撮影して確認する。	

「ICT活用プロジェクト」の授業は、校内のみならず、松江市教育委員会とも連携して記録を残し、市内の小・中・義務教育学校へ発信・情報共有。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

松江市立義務教育学校玉湯学園

【取組内容③】Googleクラスルームを用いた学校外での活動の充実

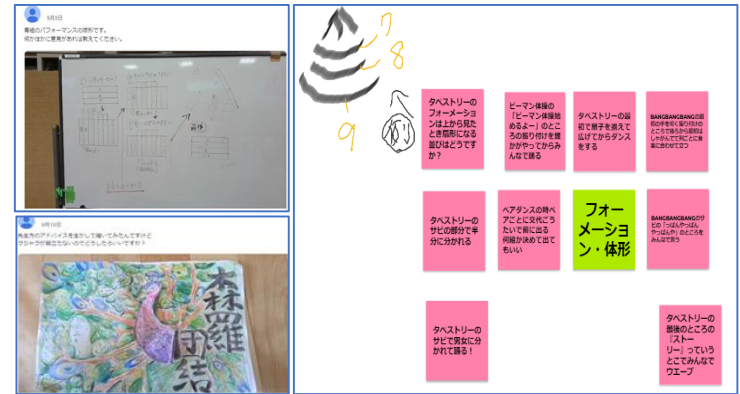
Googleクラスルームを開設し、夏休み中でも教師や児童生徒、あるいは児童生徒どうしがつながり、体育祭や音楽会に向けての準備を進めた。

①体育祭準備での活用

9年生の発案で、体育祭4色（青・黄・赤・緑）のクラスルームを開設し、体育祭の準備で活用した。

クラスルームにデコレーションの図案をアップし、アドバイスをしあった。美術教員が複数校掛け持ちして勤務しているため、クラスルームを活用することで、効率よくアドバイスをもらうことができた。

また、ジャムボードで応援ダンスの意見を出し合ったりするなど、夏休み中に効率よく、児童生徒が主体的に準備を進めることができた。



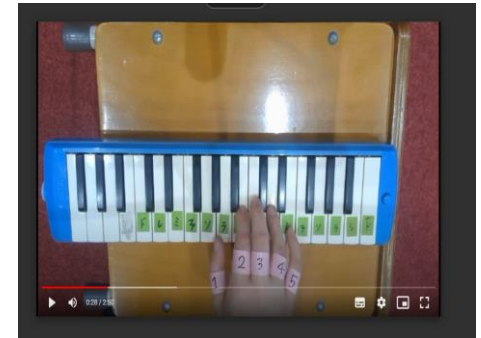
②音楽練習での活用

2学期の文化祭に向けた音楽練習のため、クラスルームを開設した。

教師が弾いた音源動画をクラスルームにアップし、それを夏休み中に聞いたり、手本にして児童生徒は練習した。動画なので、音だけでなく指使いも確認することができた。

何度も見返すことができ、自主練習の助けとなった。進捗状況を児童生徒が伝え、教員がコメントするなど、双方向で関わることができた。

また、7年生の音楽授業では、合唱練習で複数の場所に分かれてパート練習をする際にGoogleミートでつなぎ、離れた場所にいる音楽教員にアドバイスを求めたりして練習する姿も見られた。



時間や場所の制約を受けず意見交流ができることを知った児童生徒たちから、「こういう場面でクラスルームを活用したい」との声があがるようになった。

また、行事や児童生徒会活動等でクラスルームを開設するだけでなく、各教科でのクラスルーム開設へと広がった。

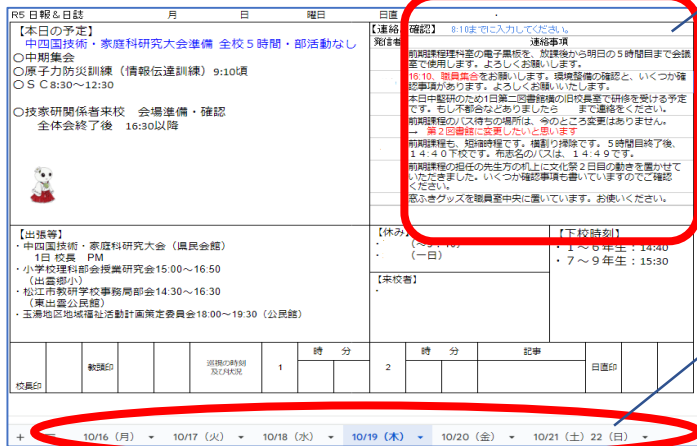
リーディングDXスクール事業【実践事例】

松江市立義務教育学校玉湯学園

【取組内容④】 Googleクラスルームと指導者用タブレットを活用した情報伝達(日報・欠席連絡等)の効率化

児童生徒数約730名、教職員数約60名と大規模校であり、前期課程と後期課程では生活時程が異なることから、情報の集約や情報共有に課題があった。様々なGoogleアプリ(クラスルーム、フォーム、スプレッドシート)と指導者用タブレットを活用することで、情報伝達の効率化を図った。

① Googleスプレッドシートを活用した日報



教務から伝える日報に加え、教職員からの伝達事項欄を設けた。共同編集できることから各自の端末から「いつでも」「どこからでも」入力することができる。

この日報は、職員室の大型モニターに映し出すだけでなく、各自のタブレットからもアクセスすることができるので、教室からでも確認することができるようになっている。

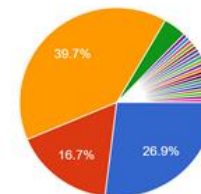
また、プリントアウトし、学校日誌としても活用している。

日付のタブを選択することで、先の連絡事項を書き込むことも可能である。

② 様々な場面でのGoogleフォームの活用

- 欠席等連絡での活用：朝の電話対応が激減し、他の業務対応が可能となった。
- 下校手段の連絡での活用：インフルエンザ等の蔓延のため、急遽児童を下校させることになった際に、下校手段を保護者からフォームで回答してもらった。従来は、電話連絡等に対応していたため、大幅な業務改善につながった。
- 学校行事に対するアンケートに活用：意見を瞬時に集約できることから、アンケートをとりやすくなり、学校行事を検討する際に参考にしたり、保護者の教育活動への参画意識を高めることに寄与した。

1から9年生が合同で、2日間の体育祭開催でしたが、「実施方法」はどうでしたか。
156件の回答



- 2日間開催が良い
- 種目を減らして1日開催が良い
- 選択1～4年の体育祭、5～9年の体育祭、わからない
- 1～6年生の体育祭、7～9年生の体育祭
- 2日間の開催が良いが、2日間のうち1日～6年、7～9年でわけてやる
- 1～6年、7～9年でわけてやる
- 長くなっても構わないので、1日開催...

【取組内容⑤】 学校外関係者とのリアルタイム情報共有(Googleアカウントの発行とGoogleクラスルームへの招待)

校内でのICT活用を進めるために、様々な人の支援を得るとともに、Googleアカウントを発行し、効率よく打合せを行った。

①大学生のICTボランティア

- ・ 児童生徒のタブレット操作スキルには個人差が大きく、低学年ではとくに操作に慣れるまでにサポートが必要となる。
- ・ 授業中の個々のサポートは、授業者だけでは限界があり、地域の大学生6人にICTボランティアをお願いした。
- ・ 大学生はいずれも教職志望の4年生で、現場経験を積みたいという学生の要望とも一致して実現した。
- ・ 大学での授業を踏まえ、ローテーションで週3日午前中にボランティアに入ってもらった。
- ・ 授業者からは「大変助かった」という声が聞かれた。
- ・ ICTをボランティアをしてもらうにあたり、教育委員会より指導講師を派遣してもらい、研修の機会をもった上でスタートした。
- ・ この大学生ボランティア6名との連携を容易にするため、Googleアカウントを発行しクラスルームに招待し、日程調整、サポートを依頼したい内容や、学生からの回答にスプレッドシートを使うことで、調整コストが激減し、効率的にサポートしてもらうことができた。